

## 家電製品協会



家電製品協会  
森 拓生センター長

## 家電アドバイザー・エンジニア、スマートマスター資格試験

## 9月試験はCBT方式で

## 「受験者の利便性は飛躍的に向上」

■3月試験の中止を受けて満を持して導入

家電製品協会認定センターでは、毎年3月と9月の年2回、家電製品アドバイザー、同エンジニア、スマートマスターの各資格の認定試験を実施してきましたが、前回3月の試験は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりました。

2月26日、安倍首相から多くの人が集まるイベント等について、中止または縮小の要請がなされたのを受けて、本試験の第三者委員会と急遽相談の上、中止を決めました。

受験者の皆さんや関係方面からは、結果として概ね良好な評価をいただきました。

次回、9月の試験は「CBT (Computer Based Testing)」方式で実施します。これまで、CBT方式について検討を進めていたもので、3月試験の中止を受けて満を持して導入を決めたものです。

CBT方式は、国家検定から趣味の検定まで幅広く活用されており、そのノウハウは実証済と言えらると思います。

私がCBT方式にて試験を実施することを決断したのは、3月試験に続いて、9月試験までも中止してはならない、という強い使電感が根底にあります。今や、私共が主催する家電アドバイザー等の資格制度は、家電業界に従事される方々の昇進昇格などの要件として人事制度とリンクしているケースも多くなっており、軽々に試験を中止できるものではないと認識しています。しかし、一方で

新型コロナウイルス感染症から受験者の皆さんを守り、安心な受験環境を確保する責任もありません。その2つを満たす解が「CBT方式での試験実施」だったのです。

9月試験で導入するCBT方式について、少しご説明したいと思います。さきほど申し上げたように、すでに多くの資格検定試験で採用されていますが、今回

CBT方式は、国家検定から趣味の検定まで幅広く活用されており、そのノウハウは実証済と言えらると思います。

現在、焦眉の問題である感染症対策として、CBTの特徴をかい摘んで紹介すると、まず「三密回避」です。それぞれの会場は、平均10名程度の収容人員であり、大規模に人が集まることはありません。また、「換気」を徹底することはもちろんですが、従来のような試験開始前の試験官によるオリエンテーションなどはなく、すべてパソコン上でガイドします。つまり、試験会場内は終始「無言状態」であるということです。また、当然マスクの着用などの対策はすべての会場でスタンダードになっています。

決して気を緩めるわけにはいきませんが、受験者の皆さま方の良識ある行動が伴うことで、相対的に安心な試験環境を創出できるものと考えています。

タイアップを予定している運営会社の場合、全国二百数十か所に会場を設営しています。

適時分散型を標榜する、今回の私共のCBT方式試験は、9月7日(月)から9月20日(日)の2週間に、全国二百数十か所より最寄りの会場を選んでいただける仕組みです。2日限りで全国20数か所の試験会場から選んでいただく従来の試験方式と比べると、受験者にとっての利便性は飛躍的に向上するものと期待しています。

さらに、ほぼすべてのオペレーションが電子化されることにより、予約していた受験日・場所は、その3日前までなら変更可能になります。そのことは、仕事との兼ね合いで柔軟な対応が可能になると同時に、体調不良の場合、無理をしなくてよい、つまり感染症対策という観点でも有効な方式であると考えています。

ここまでは、CBT方式試験の利点を

一般財団法人家電製品協会認定センターでは、9月に開催予定の家電アドバイザー等の認定試験について、これまで全国一斉に実施してきた試験方式に代えて、PCを活用して受験者の都合に合わせて受験日・会場を選択できる「CBT (computer based testing) 方式」をトライアル導入する。試験期間は9月7日から20日の14日間。受験者は都合に合わせて日程を選び、全国200か所を超える会場のいずれかで受験する。

森拓生センター長は、「適時分散型の試験となることで、受験者にとっての利便性は飛躍的に向上するものと期待している」と話す。会場と時間を分散することで、感染症対策としても有効となっている。「資格試験をDX時代に合わせて進化させるとともに、皆さまの「学び」を支援する事業に取り組んでいきたい」と話す森拓生センター長に話を聞いた。

■皆さまの「学び」を支援する事業に取り組む

適時分散型を標榜する、今回の私共のCBT方式試験は、9月7日(月)から9月20日(日)の2週間に、全国二百数十か所より最寄りの会場を選んでいただける仕組みです。2日限りで全国20数か所の試験会場から選んでいただく従来の試験方式と比べると、受験者にとっての利便性は飛躍的に向上するものと期待しています。

さらに、ほぼすべてのオペレーションが電子化されることにより、予約していた受験日・場所は、その3日前までなら変更可能になります。そのことは、仕事との兼ね合いで柔軟な対応が可能になると同時に、体調不良の場合、無理をしなくてよい、つまり感染症対策という観点でも有効な方式であると考えています。

ここまでは、CBT方式試験の利点を

## DX時代における必然の変化として

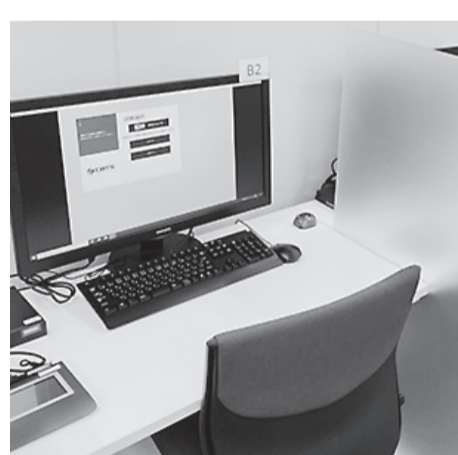
■学習された積み重ねが生きる試験に

ややこしい説明になりましたが、そういう細かい配慮の交錯コントロールが最も難しい課題でした。受験される方々が学習された積み重ねが生きる試験にできるよう、試験までに残された時間を活用して全力で準備する所存です。

受験者のなかには、CBT方式試験を経験されたことのない方も多いうらっしゃいます。「初めて」がハンデにならないように、現在、私共認定セン



CBT方式の試験会場イメージ



テストセンター受付

ニューズリリースにて「トリアル」と記載したのはその心情の表われです。もちろん、実施する試験自体は厳正であり、試験結果は常に信頼に足るものであることには自信をもちています。その準備状況や受験者に対する配慮について、万一、不足する点があれば、謙虚に改善して行こうというスタンスです。

例えば、従来「紙」に記載された試験問題が、今回は「パソコンのディスプレイ」に変わりますが、このことが果たして受験者ほどの程度の影響を与えるのか。慎重に考えねばなりません。今回の試験では、身体的負荷の軽減を考慮し、試験時間を短縮した上で、出題数を削減する計画です。しかし試験機能を維持する必要があるからです。自ずと個々の試験問題は変容することになります。

でも、これまで学習されてきた知識を生かせるように配慮していますので、ご安心ください。

（学習内容）の見直しで良いという時代は終わりました。つまりビジネスの最前線には常に最新の知識供給が必要であり、私共は不断の状態での作業を実行する必要があると認識しています。それを可能にするのが「教材のデジタル化」です。

まずは、来る9月のCBT方式での初めての試験を成功裏に終えることが第一ですが、その先に検討しなければいけないテーマが数多くあります。受験者の皆さまをはじめ、関係各方面の方々の声に耳を傾けながら、資格試験を時代に合わせ進化させるとともに、皆さまの「学び」を支援する事業に取り組んでいきたいと思っています。

共が提供するすべてのサービスがその対象であるべきでしょう。たとえば、受験参考書や過去問題集などの教材も当然、デジタル化すべきでしょう。実際の試験はCBTなのに、勉強は紙の本で、という不適合は、いずれ修復しなければならぬと考えています。

コロナ禍の影響もあり、私たちが取り巻く環境は、大きく、そして猛スピードで変化しています。そんななかでビジネスチャンスが生まれるわけです。これまでのように1年に1回の参考書

更新は、来る9月のCBT方式での初めての試験を成功裏に終えることが第一ですが、その先に検討しなければいけないテーマが数多くあります。受験者の皆さまをはじめ、関係各方面の方々の声に耳を傾けながら、資格試験を時代に合わせ進化させるとともに、皆さまの「学び」を支援する事業に取り組んでいきたいと思っています。